

旅費規程・日当

旅費規定の中に含まれるもの

---交通費

---宿泊費

---日当（食事代、雑費など）

これらは実費伝承的解釈によって定額化できる

例、交通費は広島～東京の往復交通費を 45300 円(グリーン)と規定、実際格安航空券で 20000 円かかった→25300 円浮く

旅行会社の格安パックで 35,000 円のグリーン車往復のチケットを使用 10300 円浮く

例、宿泊費は 15,000 円の定額と規定、実際に宿泊でかかった金額が 9800 円→5200 円が浮く

例、食事代や雑費などで 1 日 5000 円の定額

(非課税とされる旅費の範囲)

9-3 法第 9 条第 1 項第 4 号の規定により非課税とされる金品は、同号に規定する旅行をした者に対して 使用者等からその旅行に必要な運賃、 宿泊料、 移転料等の支出に充てるものとして支給される金品の うち、その旅行の目的、 目的地、 行路若しくは期間の長短、 宿泊の要否、旅行者の職務内容及び地位 等からみて、その旅行に通常必要とされる費用の支出に充てられると認められる範囲内の金品をいう のであるが、当該範囲内の金品に該当するかどうかの判定に当たっては、次に掲げる事項を勘案する ものとする。

(平 23 課個 2-33、 課法 9-9、 課 4-46 改正)

(1) その支給額が、その支給をする使用者等の役員及び使用人の全てを通じて適正なバランスが 保たれている基準によって計算されたものであるかどうか。

(2) その支給額が、その支給をする使用者等と同業種、 同規模の他の使用者等が一般的に支給し ている金額に照らして相当と認められるものであるかどうか。

社長、役員、社員 それぞれに規定できるが、全員に適応させなければならない

(給与を下げて旅費規程での金額を上げる・・・これは裏技)

旅費規程（社内規定書）で定めるので、レシートは不要だが、証明できる記録は必要。

経理の簡素化の為の規定なので、宿泊費を計上しながら友達の家で宿泊するのは NG。